

中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究

— 鑑賞領域における題材開発を通して —

【研究者】

教科教育部 指導主事 濱本 飛鳥

【研究指導者】

広島女学院大学人間生活学部 准教授 森保 尚美

研究の要約

本研究は、中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のため、鑑賞領域における題材を開発し、事例を提案したものである。先行文献を基に、本研究における「主体的・対話的で深い学び」が実現した子供の姿を表に整理した。そして、新学習指導要領における鑑賞領域で育む資質・能力を明確にした上で、資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を促す鑑賞領域の指導事例（対象：中学校第3学年、教材曲「交響曲第9番合唱付き（ベートーヴェン作曲）」）を作成した。この結果「主体的・対話的で深い学び」を実現する鑑賞領域における題材の構成について、一つの方向性を示すことができた。

はじめに

「主体的・対話的で深い学び」は、学習指導要領の改訂において注目されている言葉であるが、言葉の中身についての理解は、十分とは言えない現状である。本来、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は、資質・能力の育成に向けて行うものであり、本研究において、「何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）」「どのように学ぶか（主体的・対話的で深い学び）」という視点で音楽科の学習過程を整理し、具体的な事例を示すことは、平成33年度の全面実施に向けて重要な役割を果たすと考えられる。

そこで、本研究では、中学校音楽科の鑑賞領域において、「主体的・対話的で深い学び」を効果的に位置付け、資質・能力の育成を目指す題材を開発し、授業改善の方向性を示す。

I 研究の基本的な考え方

1 新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」について

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年、以下「28年答申」とする。）では、子供たちに新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むために、改善・充

実を図るべきことが、三点求められている⁽¹⁾。第一は、学習指導要領等の枠組みを大きく見直すこと、第二は、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の確立、第三は、子供たちが「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善を図っていくことであり、「主体的・対話的で深い学び」の実現は、この三点目に当たる。

「28年答申」では、「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることとあり、授業改善の視点として、次の①から③が示されている¹⁾。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

また、「28年答申」では、これらの視点はそれぞれ固有の視点であり、単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し、改善を図っていくことが求められている。

独立行政法人教職員支援機構に設置された次世代型教育推進センターによる「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト（平成27～平成29年度）」では、三つの視点における実現したい子供の姿を、図1のようなピクトグラムで示し授業の分析を行っている⁽²⁾。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考し問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

図1 実現したい子供の姿のピクトグラム

このプロジェクトの研修協力員である谷内祐樹(2018)は、これらのピクトグラムを共通言語として授業を分析することの効果を述べ、「主体的・対話的で深い学びは子供の学びの過程として一体として実現されること」「教員側の授業改善の視点としてはそれぞれ固有性を有すること」「『主体的・対話的で深い学び』は授業改善の視点であり、目指すべきは資質・能力の育成であること」などを挙げている。

これらを踏まえ、本研究の題材開発においては、まず「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、それぞれ固有の視点で教科の特性を踏まえて整理する。そして、題材の中では、これらの学びは一体として実現されていくと捉えて題材開発を進める。

2 中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」について

中学校学習指導要領（平成29年告示）音楽科（以下「29年要領」とする。）の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「主体的・対話的で

深い学び」の実現に向けた授業改善について、次のように示されている²⁾。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。

この事項について、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編（平成30年）（以下「29年解説」とする。）では、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないと述べた上で、「題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めること」³⁾を求めている。

これらのことから、指導計画を作成する際は、まず、題材全体をまとまりとして捉え、題材で育む資質・能力を明確にすることが大切であると考ええる。そして、資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を促す場面を、どこにどのように設定するか、生徒の学びのつながりを考えながら構想する必要があると考える。

本研究における「主体的・対話的で深い学び」の実現を、図2のようにイメージする。

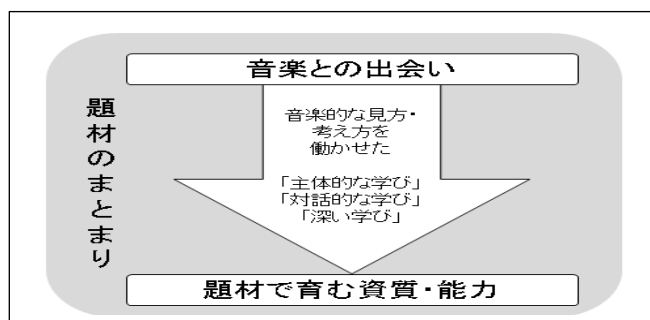


図2 本研究における「主体的・対話的で深い学び」の実現イメージ

中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」について、「芸術ワーキンググループにおけ

る審議の取りまとめについて（報告）」（平成28年8月26日）では、次のように報告されている⁴⁾。

- 「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、楽曲の背景との関わりを考えたりすることの原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しを持つことにつながる。また、音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程で持ったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚することとなる。このことが次の学びにつながっていく。
- 「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりすることが重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を構築したりしていく過程に学習としての意味がある。
- 「深い学び」の実現のためには、生徒が音や音楽と出会う場面を大切に、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持つこと、また楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる。

この報告から、学習過程においては、生徒一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせることが大切であることが分かる。「音楽的な見方・考え方」は、「29年解説」において次のように示されている⁵⁾。

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」であると考えられる。

臼井学（平成30年）は、音楽的な見方・考え方は、①音楽に対する感性を働かせること②音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えること③捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けることの三つで構成されていると述べている⁽³⁾。「29年解説」においては「深い学び」の視点に関して、学び

の深まりの鍵となるのが「見方・考え方」であると示され、生徒が音楽的な「見方・考え方」を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講じることが求められている。

このような教科の視点を踏まえ、本研究（中学校音楽科の鑑賞領域）における「主体的・対話的で深い学び」が実現した子供の姿を表1のように整理する。

表1 本研究における「主体的・対話的で深い学び」が実現した子供の姿

主体的な学び	①鑑賞活動に対する興味や関心を高める（課題発見） ②音楽のよさや美しさを見いだす見通しをもつ ③対象となる音楽に自分の意識を向けて聴き、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚する ④学習したことを振り返って、学んだことや自分への影響を自覚し、次の学びへつなげる
対話的な学び	【音楽との対話】 ⑤音楽を形づくっている要素を知覚・感受する 【子供同士の対話】 ⑥知覚した音楽的な特徴を共有したり、感受したことに共感し合ったりする ⑦客観的な根拠をもとに他者と対話し、さらに自分の考えなどを広げたり深めたりする ⑧気付いたことや感じたことなどを言葉や音楽で伝え合う 【先哲との対話】 ⑨書物などを通じて曲の背景や先哲の考え等に触れる
深い学び	⑩知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ⑪思考して問い続ける（生徒が考える場面） ⑫知識を習得する（教師が教える場面） ⑬知識を活用し、音楽のよさや美しさを見いだす ⑭知覚・感受して捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考える ⑮音楽のよさや美しさについて、生活の中の音や音楽について批評文で表現する

題材開発においては、表1の①から⑮の姿が題材の中で実現することを目指す。

3 中学校音楽科で育成を目指す資質・能力について

(1) 教科の目標について

「29年要領」において、音楽科の教科の目標は、「柱書、(1)、(2)、(3)」という構造で次のように示されている⁶⁾。

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 - (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
 - (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

臼井（平成30年）は、「柱書」には、音楽科の学習が、どのような資質・能力を、どのような学習活動によって育成するのか、ということを端的に示していると述べ、ここで言う「資質・能力」の中身が(1)、(2)、(3)であると示している⁽⁴⁾。

また、「29年解説」では、「音楽科で育成を目指す資質・能力を『生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力』と規定し、『(1)知識及び技能』、『(2)思考力、判断力、表現力等』、『(3)学びに向かう力、人間性等』について示した。」⁷⁾と示されている。

このように、中学校音楽科においては、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」を育むため、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、(1)から(3)の資質・能力を育成することが大切である。

(2) 鑑賞領域で育成を目指す資質・能力について

「29年要領」では、「28年答申」において「生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについて、更なる充実が求められる」とされたことを踏まえ、鑑賞領域の指導事項に「生活や社会における音楽の意味や役割」「音楽表現の共通性や固有性」について考えることが示された⁽⁵⁾。

「29年要領」における鑑賞領域の指導事項を表2のように整理する。

表2 鑑賞領域の指導事項

	〔第1学年〕	〔第2学年及び第3学年〕
思考力・判断力・表現力	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
	(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性	
知識	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。	
	(ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び アジア地域の諸民族の音楽 の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性	(ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び 諸外国の様々な音楽 の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

※〔第1学年〕と〔第2学年及び第3学年〕の相違点を太字で示す。

「29年解説」では、これらの各事項を適切に関連させて指導することが求められ、鑑賞の学習は、アの(ア)(イ)(ウ)のうち一つ以上、イの(ア)(イ)(ウ)のうち一つ以上の各事項を組み合わせた題材を設定して行うことと示されている。

これらのことから、鑑賞領域は、「音楽のよさや美しさを味わって聴く」力の育成を基盤に、音楽の社会的意義や音楽の多様性の視点をもって学習を深めていくことが求められているといえる。

(3) 資質・能力の育成に向けて

音楽のよさや美しさを味わうことについて、「29年解説」では、「曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などに関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。」⁸⁾と解説されている。このことから、生徒が音楽のよさや美しさの価値判断に至るまでには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させる場面の設定や、習得した知識を踏まえて対象となる音楽を何度も聴き返したくなるような授業展開が望ましいと考える。また、音楽の内容を価値あるものとして確認するために、自分の考えを表出させる場面も大切であると捉える。「B鑑賞」の指導に当たっては、「第1学年では言葉で説明したり、第2学年及び第3学年では批評したりする活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるよう指導を工夫すること」⁹⁾が求められており、対象となる音楽が、自分にとってどのような価値があるのかといった評価を根拠をもって述べるためには、次に示す①から④までを明らかにできるように指導することが大切であると示されている¹⁰⁾。

- ① 音楽を形づくっている要素や音楽の構造
 - ② 特質や雰囲気及び曲想
 - ③ ①と②との関わり
 - ④ 気に入ったところ、他者に紹介したいところなど自分にとってどのような価値があるのかといった評価

上の①から④においては、④が評価であり、①②③が根拠となるとされている。また、指導事項イの(イ)(ウ)を取り上げた題材においては、その事項に関する学習で習得した知識も評価の根拠にすることができるよう指導することが大切であると述べられている。

これらのことを踏まえ、題材開発においては、批評する活動を適切に位置付けて価値を確認させる

場面を設けるとともに、知識の習得・活用と音楽を聴く活動の構成に配慮した授業を構想していく。

II 指導事例の作成について

1 指導事例の概要

○対 象 中学校第3学年
○題材名 オーケストラと合唱が織りなす響きを味わおう

○教材名 「交響曲 第9番 ニ短調 作品125」
[第4楽章] (ベートーヴェン作曲)

○教材について
「交響曲第9番」は、終楽章(第4楽章)に、シラーの詩「歓喜に寄す」に基づく独唱や合唱を伴った交響曲である。交響曲に初めて効果的に声楽を用いた曲として、後世に大きな影響を与えている。第4楽章は、冒頭部において第1楽章から第3楽章までの旋律がオーケストラで回想された後、人類の理想を高らかに歌い上げる声楽部分へと続く。年末には日本各地で「第九コンサート」が開催されており、生活や社会における音楽の意味や役割を考えることにも適した教材であると考ええる。

○中学校学習指導要領(平成29年告示)との関連
「B鑑賞」[第2学年及び第3学年]
ア(イ)、イ(ア)(イ)
[共通事項] 本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素とその具体

音色	○オーケストラの楽器の音色 ○声の音色
速度	○楽曲の速度
旋律	○歓喜の旋律
テクスチュア	○楽器の重なり ○声の重なり(重唱, 合唱)
構成	○第4楽章の構成 ・前半のオーケストラ部分の構成 ・声楽部分の構成

○目 標
音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割を考え音楽のよさや美しさを味わって聴く。
○評価規準
・曲想と音楽の構造との関わりを理解している。(知識)

- ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。(知識)
- ・生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(思考力, 判断力, 表現力)

○主な学習活動(全3時間)

時	主な学習活動
第1時	○全国各地で開催される「第九コンサート」のチラシを見て、人々に幅広く親しまれている楽曲であることを知る。 ○楽曲の概要や楽曲が生まれた背景について知る。 ○楽曲の魅力に迫るという課題をもつ。 ○第4楽章前半のオーケストラ部分を聴く。 ○曲想と音楽の構造との関わりについて文章にまとめる。
第2時	○「歓喜の歌」を歌う。(ドイツ語・原調) ○第4楽章前半の声楽部分の構成を知る。 ○シラーの詩の大意を知る。 ○歌唱形態やオーケストラと声楽との関わりに気を付けて聴く。 ○聴いたり歌ったりして得た曲想と音楽の構造との関わりについて文章にまとめる。
第3時	○新聞記事や絵本等を通して楽曲の様々な背景を知る。 ○第4楽章の終末部を聴く。 ○この曲のよさや魅力について、楽曲の特徴や楽曲の背景と関わらせながら批評文を書き、他者と交流する。 ○学習したことを踏まえて、第4楽章を味わって聴く。

2 指導事例の作成に当たって

本研究では、これまで述べてきたことを踏まえ、中学校音楽科の鑑賞領域において「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、「音楽のよさや美しさを味わって聴く」力を育成するための指導事例を作成した。作成に当たっては、次の点を工夫し、指導事例に明記した。

- 表1で整理した「主体的・対話的で深い学び」が実現した子供の姿を引き出すための教師の働きかけ(発問等)を、表1の①～⑮と対応させて具体的に示した。
- 批評する活動(振り返り)を毎時間の終末に位置付けた。その際、生徒の思考を促す具体的な視点を明確に示すとともに、学びの自覚のための交流を行う場面を設定した。
- 批評文においては、学習が深まったと判断する生徒の記述例を示すことで、授業の終末で目指す姿を明確にした。
- 音楽を聴く時間と考える時間のバランスに配慮し、音楽を聴く場面には、マークを記した。

指導事例（全3時間）

○学習内容 ・活動内容	「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための ●教師の働きかけ ○期待する生徒の反応 [♪]は音楽を聴く場面	・指導上の留意点 ◆評価
（第1時）ねらい：第4楽章前半のオーケストラ部分を聴き、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 ○全国各地で開催される「第九コンサート」のチラシを見て、この楽曲が広く人々に親しまれていることを知る。 ・楽曲の概要や楽曲が生まれた背景について知る。 ○題材を貫く課題をもつ。 ○第4楽章の大まかな構成を知る。 ○第4楽章前半のオーケストラ部分を聴く。 ・通して聴き、全体像をつかむ。 ・「歓喜の旋律」が繰り返し演奏されていることに気付く。 ・曲想と音楽の構造とを結び付けながら聴く。 ・理解したことを基に味わって聴く。		
	●① これらのチラシは、ある曲のコンサートのチラシです。何の曲だと思いますか。 （例）第九ひろしま2016のチラシより「誰もが知るベートーヴェン最後の交響曲は、二世紀も歌い継がれる、クラシックの名曲」 ● 正解はこの曲です。少し聴いてみましょう。[♪]（合唱部分のみ） ○聴いたことがあるよ、年末によく聴くね。 ○リコーダーで吹いた「喜びの歌」のメロディーだね。「運命」を作曲したベートーヴェンの曲だね。 ●①⑫ この曲の概要や、曲が生まれた背景について少し紹介します。 （例）交響曲に初めて効果的に声楽を導入した曲である。構想から30年以上の長い年月をかけて作品を完成させた。フランス革命の精神（自由・平等・博愛）を曲に反映させたといわれている。等 ○なぜこの曲は200年もの長い間、歌い継がれているのかな。 ○なぜ、毎年全国各地で「第九コンサート」が開かれているのかな。 ●② それでは、今回の学習では、皆さんでこの曲の魅力に迫っていきましょう。そして、「この曲は、人々をどのような気持ちにさせてきた音楽か」ということについて考えてみましょう。 ●⑫ 第4楽章は、先ほど聴いた合唱の部分だけではなく、オーケストラだけで演奏される部分や、ソリストによって歌われる部分など様々な演奏形態で演奏されます。 ●② それでは今日は、前半のオーケストラだけで演奏される部分を中心に鑑賞していきましょう。 ●③ まずは、1回流しますので聴いてみてください。[♪] ○途中から「喜びの歌」のメロディーが聴こえてきたよ。 ○何回も繰り返されていたね。私は口ずさみながら聴いたよ。 ●③⑤ それでは、みんなで確かめてみましょう。「歓喜の旋律」が聴こえてきたら、手を挙げながら聴きましょう。[♪] ●③⑤⑩ もう一度「歓喜の旋律」が繰り返される部分の音楽を流します。音楽の雰囲気などについて感じ取ったことや、音楽の特徴について気付いたことをワークシートにメモをしながら聴きましょう。[♪] ●⑥⑦⑧ ペア（グループ）で伝え合ひましょう。[♪] ●⑥⑧⑩ ペア（グループ）で伝え合ったことを、全体で紹介してください。[♪] ○最初はささやくような静かな感じだったね。コントラバスとチェロが出てきて低音でひっそりとメロディーを奏でていたよ。 それからだんだん盛り上がっていったね。 ○音がだんだん高くなっていったね。ファゴットが入ってきてからは、会話をしているような音楽で、掛け合いが楽しかったな。 ○最後は、打楽器も入って盛り上がっていたね。喜びが広がっていくようだったよ。一気に速くなったのも面白いね。 ●⑬ それでは、皆さんから出た意見を踏まえて、もう一度聴きましょう。[♪]	・曲名を隠したチラシ数枚を、パワーポイントで提示し、学習する楽曲について興味をもたせる。 ・開催日時、キャッチフレーズ等に注目させ、気付きを自由に交流させる。 ・生徒に知っていることを発表させながら、楽曲の概要や背景について補足説明する。 ・生徒の発言を基に、題材を貫く課題を設定し、この曲の魅力に迫っていくことについて見通しをもたせる。 ・第4楽章の大まかな構成を示す補助資料を配付し、視覚的に概要をつかませる。 ・繰り返し音楽を流す。 ・全体共有の際、生徒の発言を受けて、知覚と感受の関わりについて、板書上で整理する。 ・発言の内容について、適宜音楽を聴いて確かめさせる。

○振り返りをする。	●④⑪⑭ 今日の学習を振り返って、次のことをまとめましょう。🎵 「『歓喜の旋律』が形態を変えて繰り返される良さや面白さについて文章にまとめましょう。その際、音楽から感じ取ったことと、音楽の特徴（音色、速度、旋律、テクスチャ、構成等）を関連付けて書きましょう。」	◆曲想と音楽の構造との関わりを理解している。（知識） ・書く時間には音楽を流し、適宜音楽を聴いて確かめさせる。
【学習が深まったと判断する生徒の記述例】（下線は音楽から知覚したこと、波下線は感受したこと） 「歓喜の旋律」がオーケストラだけで繰り返される場面の音楽は、<u>一人一人の小さな喜びが絡まり合って、人類みんなの大きな喜びに広がっていくようなイメージがわいて面白かったです。</u>最初、「歓喜の旋律」は、<u>コントラバスとチェロによって、心の奥底で静かに産声をあげたようにひっそりと聴こえてきますが、</u><u>ヴィオラやバイオリンが加わっていくと音楽がどんどん華やかになります。</u>また、<u>ファゴットが「歓喜の旋律」と対話するように別の旋律を演奏しており、会話をしているようで楽しい音楽でした。</u>		
（第2時）ねらい：声楽部分の演奏を聴いたり歌ったりして、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。		
○前時の復習をする。 ○「歓喜の歌」を歌う。 ・ドイツ語の発音を知る。 ・ドイツ語でリズム唱を行う。 ・歌いやすい調で旋律を歌う。 ・原調（二長調）で歌う。 (ソプラノ) Ella Maria  (アルト) Frau - de, schü - ter, Göt - ter - kin - den, hoch - ste E - (テノール) (バス) ○オーケストラ部分に続く声楽部分を聴く。 ・声楽部分の構成を知る。 ・シラーの詩「歓喜に寄す」の大意を知る。 ・声楽部分の最初にベートーヴェン自身が作詞した部分があることを知る。	●④ 前の時間は、第4楽章前半のオーケストラ部分を聴きました。皆さんの振り返り文をいくつか紹介します。 ●③（紹介の後に）では、前回は思い出しながら聴きましょう。🎵 ●①② それでは今日は、オーケストラ部分に続く声楽部分を中心に鑑賞していきます。「歓喜の歌」のメロディーは皆さんよく知っていますね。まずは歌ってみましょう。ドイツ語に挑戦しますよ。 ●① だんだん慣れてきたので、実際の調で歌ってみましょう。 ●① それでは、今度はCDに合わせて歌ってみましょう。🎵 ●⑧ 歌ってみて、どんな感じがしましたか。 ○実際の調は声がとても高く、魂の叫びという感じがするね。 ○嬉しさがあるれ出す感じだな。 ○8分の6拍子のリズムにのって歌うと、躍動感があるね。 ●② ここまでは有名な旋律の部分だけを歌っていましたが、今から、オーケストラ部分に続く声楽部分を続けて聴いてみましょう。 ●③ まずは、1回流しますので聴いてみてください。🎵 ○ソロで始まっていたね。「歓喜の旋律」もソロで歌われていたよ。 ○独唱や合唱だけでなく、ソリストだけで歌う部分もあったな。 ●⑫ 各声部を一人ずつの歌手が担当する演奏形態を「重唱」といいます。声楽部分の構成を確認してみましょう。 ●⑫ ベートーヴェンは、シラーという人が作った「歓喜に寄す」という詩を基に、この曲の声楽部分をつくりました。詩の意味を見てみましょう。 ●①③ 実は、声楽部分の最初には、ベートーヴェン自身が作詞した部分「（日本語訳）友よ！このような音楽ではなく、喜びにあふれた音楽を歌おうではないか」があります。その部分を聴いてみましょう。🎵どんな感じがしましたか。 ○力強い歌声だね。大勢の人に情熱的に訴えているような感じだね。 ●③⑤ それでは、歌詞の意味を感じながら聴きましょう。🎵 ●③⑤⑩⑪ もう一度流します。次は、オーケストラと声楽との関わりにも気を付けて聴いてみてください。感じ取った雰囲気や、音楽の特徴は、ワークシートにメモをしながら聴きましょう。🎵 ●⑥⑦⑧ ペア（グループ）で伝え合いましょう。🎵 ●ペア（グループ）で伝え合ったことを全体で紹介してください。🎵	・振り返り文を紹介することで、音楽的な特徴の共有や感受を促す。 ・実際に歌うことで、実感をもたせて曲を理解させる。 ・歌唱においては、発音の確認やリズム唱等、スモールステップで慣れさせる。 ・原調で歌うことで、音の高さや雰囲気の違いに気付かせる。 ・生徒の発言を受けて、独唱や重唱等の歌唱形態について確認する。演奏風景の写真を提示し、視覚的にイメージをもたせる。 ・声楽部分の音楽の構成と歌詞を示す補助資料を配付し、視覚的に理解を促す。 ・シラーの詩を扱う場面では、ベートーヴェンが、シラーの詩の全節ではなく一部を選択して用いていることを紹介し、作曲者の意図を想像させたり、他の芸術との関わりについて考えさせたりする。

○振り返りをする。	○バリトンの「歓喜の旋律」のソロの後に、合唱が続いていて、ソロの呼びかけに対して、みんながこたえている感じがしたよ。独唱と合唱の対比が面白いね。 ○次々と場面が変わって、映画を見ているような気分になるね。途中のオーケストラの部分は、軽やかに踊り出したくなるような雰囲気、これから楽しい物語が始まりそうなイメージだったよ。 ○テノールのソロの後ろで、軽やかにオーケストラの「歓喜の旋律」が流れていたよ。トライアングルが明るくリズムを刻んでいるのも印象的だったな。声と楽器が溶け合っていて素敵だね。 ○「歓喜の旋律」の大合唱に入る直前は、もったいぶっている感じで、もどかしい気持ちになったよ。やっと合唱に入った瞬間は、喜びが爆発したみたいだったね。合唱部分が大迫力で「すべての人々は兄弟となる」という歌詞の世界がよく表れていたね。 ●④⑪ 今日の学習を振り返って、次のことをまとめましょう。 「交響曲第9番ニ短調の音楽は、あなたをどんな気持ちにさせてくれる音楽ですか。音楽の特徴（音色、速度、旋律、テクスチャ、構成等）と関連付けて書きましょう。」	・全体共有の際、生徒の発言を受けて、知覚と感受の関わりについて、板書上で整理する。 ・発言の内容について、適宜音楽を聴いて確かめさせる。 ◆曲想と音楽の構造との関わりを理解している。（知識） ◆音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。（知識）
【学習が深まったと判断する生徒の記述例】（下線は音楽から知覚したこと、波下線は感受したこと） 「交響曲第9番」の音楽は、私に大きな希望を与えてくれるような音楽です。実際に歌ってみると、あまりにも高い声の高さと躍動感のあるリズムに、心の奥底からエネルギーが湧き出るような気がしました。また、声楽の部分は、バリトン「友よ！～」のソロの後、合唱と重唱で「歓喜の旋律」がリレーのようにつながっていく場面で印象的でした。ベートーヴェン自身が作詞した部分は力強い歌声で、ソロの直後に合唱があることで、バリトンの呼びかけに呼応し、世界中の人々がひとつになろうと団結するようなイメージがわきました。四声による重唱も印象的で、高らかに響くソプラノや、重厚感のあるバリトンの低い歌声等が一体となって音楽を奏でることで、老若男女問わず地球上のすべての人々を巻き込むような音楽だと感じました。		
（第3時）ねらい：生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。		
○前時の復習をする。 ○この曲の様々な背景を知る。 （1）新聞記事より （特集記事「廃虚の街に希望の音色」、投書欄「『第九』合唱で一体感」） （2）絵本「交響曲『第九』歓びよ未来へ！板東俘虜収容所 奇跡の物語」より （3）「第九コンサート」のチラシより（東日本大震災からの復興、がんの克服等）	●④ 前の時間は、第4楽章前半の声楽部分を聴きました。皆さんの振り返り文をいくつか紹介します。 ●③（紹介の後に）では、前回は思い出しながら聴きましょう。🎵 ●⑨ 今回の学習の1時間目に、年末になると全国各地で「第九コンサート」が開かれることを紹介しましたね。12月になると、新聞やテレビで「第九」に関するニュースを見る機会が増えます。今日は、この曲にまつわる新聞記事をいくつか紹介します。 ●⑨ また、徳島県では「第九」にまつわるこのような話があるそうです。 ●⑨ また「第九コンサート」は、年末に限らず、様々な目的で開かれています。 ●⑦⑧ このような曲の背景を知って、皆さんはどのようなことを感じましたか。グループで意見を交流しましょう。	・振り返り文を紹介することで、音楽的な特徴の共有や感受を促す。 ・配付資料を基に、楽曲の背景等について説明する。 ・主要な場面を抜粋して、絵本の読み聞かせを行う。 ・様々な目的で開かれる「第九コンサート」のチラシをパワーポイントで提示する。

○曲の背景等に触れて感じたことを伝え合う。 ○第4楽章の終末を聴く。 ○生活や社会における音楽の意味や役割について考え、批評文にまとめる。 ・個人で批評文にまとめる。 ・批評文を交流する。 ○これまでの学習を踏まえて味わって聴く。	○私は、この曲は長すぎると思っていたけど、新聞の投書のように、第1楽章から第3楽章を聴く時は、自分やこの一年を心の中で振り返りながら聴くと、特別な聴き方ができる気がしたよ。 ○「第九」は、原爆から復興に向かう市民を勇気づけた曲でもあるんだね。広島に住む私たちにとっては、平和への思いにつながる特別な意味をもつ曲だといえるね。 ○年末だけでなく、この曲はいろんな願いを込めて演奏されているんだね。生きることに大きな力を与えてくれる曲だといえるね。 ●③⑤ 「交響曲第9番」は、全楽章を聴くと1時間を超える大曲ですが、この曲は最後に、このような音楽で締めくくられます。 ●⑥⑦⑧ どんな感じがしましたか。音楽の雰囲気などについて感じ取ったことや、音楽の特徴について気付いたことをグループで伝え合ってみましょう。 ○壮大な終わり方だね。世界中の人が喜びに沸いて、踊り狂っている感じがしたよ。どんどん加速して、楽器の迫力も増して、明るい未来に向けて一直線に突き進むイメージだったよ。 ○この曲を年末に聴いたら、次の年への力がみなぎってきそうだね。 ●④⑩⑪⑬⑮ これまで皆さんは、第4楽章の前半部分を中心に、この曲を鑑賞してきました。また、今日は、この曲の背景について触れていきました。学習のまとめとして、次のことを文章にまとめましょう。 「交響曲第9番二短調の音楽は、人々をどのような気持ちにさせてきた音楽でしょうか。この曲の音楽の特徴や、この曲が成立した背景、演奏されたり聴かれたりしていた状況などを踏まえて、あなたの考えをまとめましょう。」 ●⑧ それでは、皆さんが書いた批評文を交流しましょう。 ●③⑬ これまでの学習を踏まえて、もう一度皆さんで聴きましょう。	・楽曲の背景と曲想とを結び付けて楽曲を捉えさせる。 ・机間指導で発言内容を把握し、必要に応じて全体に紹介して価値付ける。 ・共感、共有することが、音楽を一層聴き深めることにつながることを実感させる。 ・書く時間には音楽を流し、適宜音楽を聴いて確かめさせる。 ◆音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。（知識） ◆生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。（思考力、判断力、表現力）
	【学習が深まったと判断する生徒の記述例1】 この曲は、人々に、困難なことに立ち向かっていく強さを与える曲だと思います。「歓喜の旋律」は以前から知っていたけど、自由や人類愛を求める歌詞だとは知りませんでした。ベートーヴェンは交響曲に声楽を加えることで、音だけの世界よりも強く自分の考えを発信したと思います。ベートーヴェンが曲に込めた思いや、ベートーヴェンの苦悩に立ち向かった人生を重ね合わせて聴くことで、人々はより一層勇気や希望をもらえんと思います。「歓喜の旋律」の合唱は、実際に歌ってみると、体全体で声を出さないと歌えない音域で驚きました。この壮大さで、人類の理想の世界を音で表現し、聴く人に大きな力を与えていると思います。	
	【学習が深まったと判断する生徒の記述例2】 「交響曲第9番」は、時間も国も越えて、人々の心に光を灯す力があると思います。絵本を読んで、100年前の日本で初めて「第九」が演奏されたエピソードを知り、音楽は過去にも未来にもつながっているものだと思います。徳島県の収容所の人は、平和を願って未来へ向けて演奏したと思います。そして、100年たった今でも、同じように平和を願う歌として、演奏され続けています。この曲を、これから先も歌い継いでいく必要があると感じました。	
	【学習が深まったと判断する生徒の記述例3】 私は「第九」が年末によく演奏されることは知っていましたが、それ以外にも復興を願った演奏会や、病気の克服を願った演奏会でも演奏されていることを初めて知りました。この曲は、人々の幸せを願う曲だと思います。今回の学習を通して、音楽には、傷ついた心を癒したり、苦しい境遇の人たちやその状況を励まそうとする人たちが、心と心を通わせたりする力があると思いました。	

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

新学習指導要領の趣旨を踏まえた鑑賞領域の指導の方向性について整理することができた。特に、指導事例の作成においては、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための教師の働きかけや目指す生徒の姿を詳細に示すことで、授業改善の具体的なモデルを示すことができた。

2 課題

本研究では提案にとどまっている指導事例について、検証が必要である。研究協力校での研究授業等を通じて、指導事例の有効性や生徒の変容などを考察していきたい。また、本事例における学習評価の在り方についても検討していきたい。

おわりに、本研究を進めるに当たり、御指導・御助言をいただいた、広島女学院大学人間生活学部の森保尚美准教授に心から感謝を申し上げる。

【注】

- (1) 中央教育審議会（平成28年）：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」pp. 20-26
- (2) 独立行政法人教職員支援機構（2018）：『主体的・対話的で深い学びを拓く アクティブ・ラーニングの視点から授業を改善し授業力を高める』学事出版p. 64
- (3) 臼井学（平成30年）：「生徒にとって意味のある音楽の授業実践に向けて（48）」『中等教育資料平成30年6月号』学事出版pp. 58-59に詳しい。
- (4) 臼井学（平成30年）：「生徒にとって意味のある音楽の授業実践に向けて（46）」『中等教育資料平成30年4月号』学事出版pp. 64-65に詳しい。
- (5) 文部科学省（平成30年）：「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編」p. 7

【引用文献】

- 1) 中央教育審議会（平成28年）：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」pp. 49-50
- 2) 文部科学省（平成29年告示）：「中学校学習指導要領」p. 103
- 3) 文部科学省（平成30年）：「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編」pp. 92-93
- 4) 中央教育審議会（平成28年）：「芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」pp. 21-22
- 5) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 10
- 6) 文部科学省（平成29年告示）：前掲書p. 99
- 7) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 6
- 8) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 14
- 9) 文部科学省（平成29年告示）：前掲書p. 106

10) 文部科学省（平成30年）：前掲書pp. 57-58

【参考文献】

- 野本由紀夫（2016）：『クラシック名曲のワケ 音楽授業に生かすアナリゼ』音楽之友社
- 佐野靖，杉本和寛（2016）：『文化としての日本のうた』東洋館出版社
- くすのきしげのり（2018）：『交響曲「第九」 歓びよ未来へ！板東俘虜収容所 奇跡の物語』PHP研究所
- 文部科学省（平成30年）：「平成25年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点（中学校 音楽）」